

NiiGATA

生涯学習にいがた

No. 24
1999. 4



地域の職人さんの支援によるソバ打ち体験授業（小千谷小）



お母さん、お父さん方も参加する授業風景（小千谷小）

主な内容

P6 市町村訪問を終えて

特集

P2・3 あなたの生涯学習を
情報でサポート

P4・5 これからは地域が教室

生涯学習を情報でサポート



インターネット上で展覧会を開いています

ニルス・プランでは、公民館の講座やサークルで活躍している人や、学校で学ぶ児童生徒のみなさんの学習成果(作品)をインターネットで公開しています。

展示された作品には、美術や写真、書道などの専門家から講評をいただいたり、一般の方からの感想を書き込むコーナーを設けました。作品を通じて交流が生まれることを期待しています。

出展できる作品は次のとおりです。多くの方からの出展をお待ちしています。

- 生涯学習センター、公民館等の講座やサークル活動の作品
- 新潟県社会教育施設情報化・活性化推進事業に参加する社会教育施設が所蔵し、画像データベースに登録されている資料
- 学校の学習成果としての作品
- その他公的機関の推薦があるもの

情報を通しての人と人との結びつき
(ネットワーク)の創造



出展作品

募集中!

生涯学習に関するさまざまな意見の交流や活動のPRの場を設けています

この掲示板は、生涯学習に関する県民のみなさんのさまざまなご意見の交流の場として活用していただくことを目的としています。

生涯学習に関して考えていること(意見、質問、疑問など)、自主サークルや団体の宣伝と活動の様子、生涯学習なんでも耳寄り情報などを自由に書き込むことができます。

書き込まれた発言に対しては、さらに意見を書き加えていくことができます。

新潟県社会教育施設情報化推進実行委員会(ニルス・プラン)事務局

〒950-8602 新潟市女池2066番地
事務局:新潟県立生涯学習推進センター内
tel. 025-284-6110 fax. 025-284-6019 E-mail nils@mail.lalanet.gr.jp

学習に使えるマルチメディア・データベースが充実しました

県立近代美術館や埋蔵文化財センター、自然科学館、地域視聴覚ライブラリー等の所蔵する学習資料が大幅に増えました。映像とその解説文が簡単な検索方法で引出せ、どなたにもご利用いただけます。

1999年2月末現在の登録データの内訳は表1のとおりです。

今後も引き続きデータを増やしていきます。こんな情報があったらいいなといった要望がありましたら、事務局までご連絡ください。

(表1) マルチメディア・データベースのデータ収容数

施設	データ数	データの活用例
新潟県立近代美術館	1,393	鑑賞
新潟県立自然科学館	122	調査研究、探求学習
新潟県立図書館	47	歴史学習
新潟県埋蔵文化財センター	87	調査研究、探求学習、歴史学習
新潟県立生涯学習推進センター	147	調査研究
地域視聴覚ライブラリー	1,764	地域素材の掘り起こし、探求学習

県内有数の美術館・博物館のホームページが充実しました

事務局では県内有数の美術館や博物館のホームページを作成、提供してきましたが、今年度も新たに29館を追加しました。従来の館の情報も充実しました。収録した館は表2のとおりです。

(表2)	北方文化博物館 新潟県立近代美術館 前島記念館 燕市産業史料館 上越市立水族博物館 新潟県立自然科学館 雪梁舎美術館 しろね大風と歴史の館 長岡市立科学博物館 上越市立総合博物館 十日町市博物館 柏崎市立博物館 敦井美術館 谷村美術館 トミオカホワイト美術館 良寛記念館 新潟市会津八一記念館 両津市郷土博物館 医の博物館 佐渡国小木民俗博物館 分水町歴史民俗資料館 佐渡金山展示資料館 村上市郷土資料館	日本玩具歴史館 寺泊町立水族博物館 新潟県政記念館 良寛の里美術館 塩沢町立今泉博物館 相澤美術館 新津記念館 せきかわ歴史とみちの館 糸魚川フォッサマグナミュージアム 栃尾市美術館 樋口記念美術館 今井美術館 弥彦の丘美術館 糸魚川市歴史民俗資料館 鈴木牧之記念館 水原町教育委員会 弥彦神社宝物殿 与板町歴史民俗資料館 渡辺邸 飯綱考古博物館 新潟市郷土資料館 巻町郷土資料館 黒埼町常民文化史料館	新津市鉄道資料館 金井歴史民俗資料館 加茂市民俗資料館 石油記念館 林泉寺宝物殿 春日山神社記念館 村上地方民俗資料館 佐渡植物園 新潟県立上越科学館 紫雲寺さえずりの里 吉田町史料館 長岡歯車資料館 目黒邸 天領出雲崎時代館 三島町郷土資料館 長岡造形大学 *一部は掲載予定です。
------	--	---	---

地域が教室

黒川村、中条町、加治川村、紫雲寺町の4町村連携の専業と小千谷
ている、連携融合の授業を紹介いたします。

【小千谷小学校】

「はじめよう 広げよう 心のボランティア」

① かかわっている人々

小学生
保護者
障害者
社会福祉協議会「サンラック小千谷」
小千谷市教育委員会
老人福祉施設「水仙の家」

② 進めている機関・人々

小学校
社会福祉協議会「サンラック小千谷」

③ めざしていること

障害をもつ人の思いやりや願いを知ったり、疑似体験をしたり
することを通して、障害をもつ人と共に生きて生きていくために、自
分では何ができるのかを考えて、自分なりに働きかけていくことが
できる。

ボランティア活動を通して、相手の立場を尊重したり、思いやっ
たりする気持ちを高めることができる。

④ 行うこと

障害者や高齢者も気軽に来られて、心がつながった小学校を
めざして、学校の改造計画を立てて実行したり、障害者への偏見
をなくすために働きかけたりする。

そして、自分たちができるボランティア活動を考え、実践する。最
後にまとめの発表会をする。

⑤ 大切にしたこと

障害者の苦勞や悩みにふれることができるようにするために、
単元の導入で障害者との出会いの場を設定した。その出会いは
子どもたちに強烈なインパクトを与えた。このことが「自分たちにで
きることはないか」という切実な願いにつながり、その後の活動の
原動力となった。また、自ら活動を創り出す姿がみられた。

一口にボランティア活動と言っても、施設訪問や障害児童学級
との交流など、いろいろな活動が考えられる。子どもの興味・関心
に合わせてボランティアを選ぶ事ができ、自分らしさを生かすこと
ができた。

活動内容が社会福祉協議会のボランティア推進事業と合致し
ているため、計画を立てる段階から相談し、協力しあいながら進
めることができた。また保護者の協力をあおぎ、疑似体験等いろ
いろな学習場面で参加してもらった。

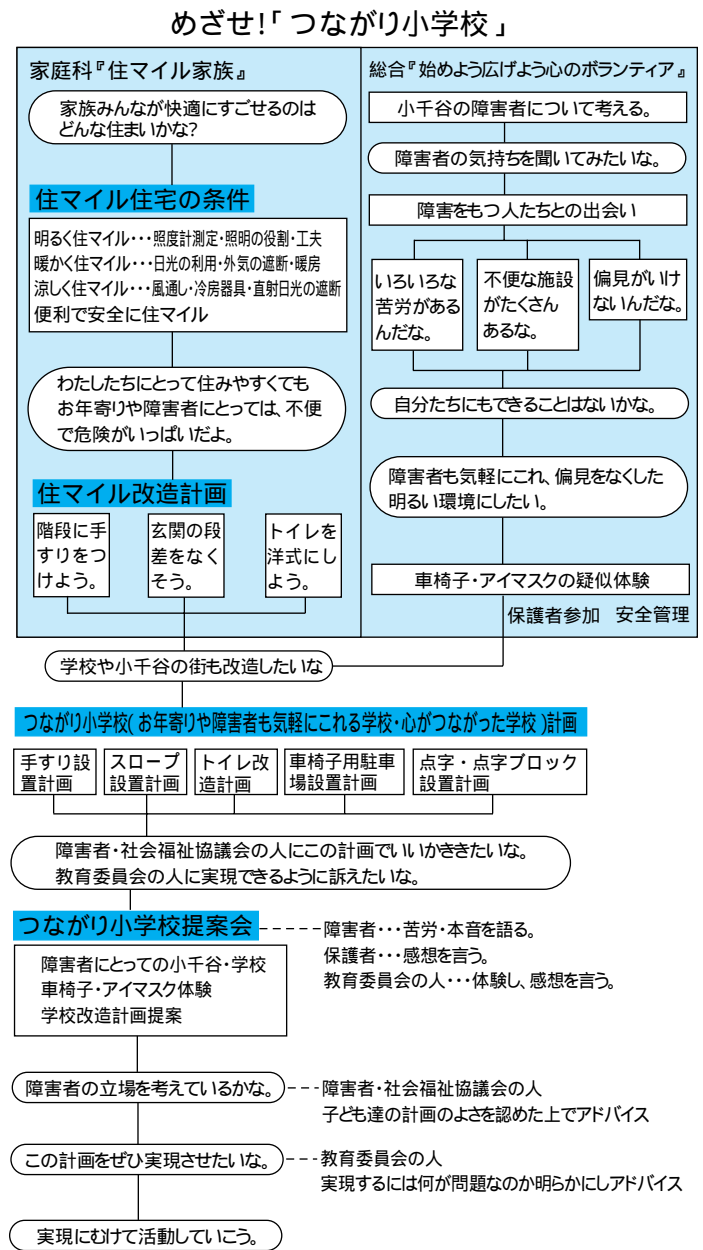
⑥ 気を付けたいこと

- 1 子どもたちが活動の意欲をもつことができるようにするために、
導入を工夫すること。
- 2 保護者・関係機関の役割分担を明確にし、打ち合わせをしっ
かりしておくこと。

⑦ よかったこと

- 1 障害者の立場にたって考える姿勢を身につけることができた。
- 2 自分たちの計画を実現するために、積極的に地域に働きか
ける姿がみられた。
- 3 親子で共通の話題となるものがあった。
- 4 関係機関との連携(学習参画)で、より社会の実情にそった単
元展開ができた。

⑧ 学習指導計画



⑨ 今後の発展

障害者に焦点をあてた単元となったが、老人福祉の実情からはいる展
開も考えられる。高齢者の願いがどのように実現されているかという
ことを窓口に、小千谷市民の願い、そして市政の学習、さらに未来の小千谷を
どうつづけていくかという学習に発展させることができる。

また、福祉について保護者ととも考え学び実践することを通して、こ
の活動を生涯学習の発信元とすることができる。さらに諸機関と共同で
プログラムを作成する「学習参画」を深めていくことができる。

これからは、

【黒川村】

今回は、学習プログラムの事例を二つ紹介いたします。一つは、小学校で実践されている地域の人達の支援を受けて授業を試みられ

秋色の風にのって...ふるさとの魅力を歩く

① 事業のねらい

中条町・紫雲寺町・加治川村・黒川村の住民を対象に、それぞれの地域のいいところにスポットをあて、由来する名所・旧跡に関するクイズに答えながら、自然に親しみ、近隣の新しい発見と参加者の親睦を図ることを目的に開催する。

② 連携団体

4町連携事業実行委員会 中条町教育委員会
紫雲寺町教育委員会
加治川村教育委員会
黒川村教育委員会

③ 参加対象・定員

高校生以上 各町村20名(全日程参加可能な方)

④ 開設期間・時間帯

9～11月までの4回

⑤ 学習時間(総時間)

14時間

⑥ 会場

屋外が中心

⑦ 参加費

1000円

⑧ 学習計画

回	学習テーマ	学習内容	時間	学習方法	教材	講師等の肩書き
1	黒川村 「わくわく?ウォーキング」	胎内パークホテル周辺のグリーンゾーンをのんびり気ままに歩いて眼下に広がる胎内川や山間の純朴な風景を楽しみ、文化色に彩られた施設をめぐる。	3	ウォーキング	ボールペン スタンプ帳	実行委員会
2	紫雲寺町 「さわやかに砂丘地帯を歩く」	清瀨(1周)・加治川・紫雲寺ゴルフ倶楽部 …県立紫雲寺記念公園トリム広場(休憩) …同海の広場	4	ウォーキング	ボールペン スタンプ帳	実行委員会
3	加治川村 「紅葉の大峰山散歩」	桜 天然記念物 〆紅葉を楽しみながら、山城遺跡を見学できるコースです。 大峰山駐車場・本松展望台・大峰山展望広場・願文山・桜公園 雨で上記予定を変更し、屋内体育館でウォーキングとレクリエーションをして参加者の交流を図った。	3	ハイキング	ボールペン スタンプ帳	実行委員会
4	中条町 「白鳥公園ウォークライム」～ 「女と男ふれ愛フェスタ」	白鳥公園展望台広場からみる町全域、日本海に浮かぶ粟島や佐渡ヶ島を眺める。 その後、産業文化会館会場へ移動、「女と男ふれ愛フェスタ」イベントに参加。	4	ウォーキング イベント参加	ボールペン スタンプ帳	実行委員会 講師 桐島洋子氏
5	事務局会議	決算報告について 事業の評価と反省 今後の取組について	1	打合せ		

⑨ 実践上で留意したこと

近隣町村との交流を図る。
より多くの参加を得るため、町村ごとの事業のある日に日程を組んだ。
気軽に参加できる雰囲気づくりに努めた。

⑩ 成果

天候にも恵まれ、ウォーキングは大成功であった。
町村間の交流ができた。
近隣にいても分からないもの、見たことがないものも多く、見聞を広めることができた。

⑪ 予算総額

参加費、一人1000円とし、その他一部経費は各町村で負担

⑫ その他

今後は企画委員をつくって、取り組むのもいいのではないかと。
各町村の実施日の間をあまり開けないほうがいい。
若い人も参加できる企画を考えていきたい。
参加者を固定せず、毎回募集するのもどうか。
各町村の行事にぶつけた方がいいと思う。
近隣町村のネットワークを広げていければ連携事業の意義がある。

市町村訪問を終えて



県立生涯学習推進センターでは、いきいき県民カレッジの参加促進とラ・ラ・ネットの導入の促進を図るため、いくつかの市町村を訪問しました。

ここでは、主な質問に対する推進センターからの回答や推進センターへの要望等をまとめて紹介します。
なお、詳細は推進センターまでお問い合わせください。



一 生涯学習情報提供システム

「ラ・ラ・ネット」について

問一 行事等の登録作業をもっと簡単にできないのですか？

答 情報の登録には二通りの方法があります。一つは、専用ソフトによる「一括登録」方式、もう一つはインターネットからの「個別登録」方式です。それぞれ一長一短ありますが、早く操作に慣れてくださるようお願いいたします。

なお、平成十一年度からは、上中下越及び佐渡の各地区別に基本操作研修を実施する予定です。

問二 情報量をもっと多くしてください。

答 市町村で行われる講座や教室、イベント等の情報は、市町村からほとんど登録提供してください。

問三 今後のシステムの見通しを教えてください。

答 現行のパソコン通信システムはこれからも運用を継続します。インターネットシステムは平成十一年度末までは運用します。十二年度以降については運用を継続していけるよう、検討を進めています。

二 いきいき県民カレッジについて

問一 奨励証について学長賞の上を検討願いたい。

答 平成八年度に大幅な見直しを図っており、学長賞を最高の奨励証として位置付けました。それ以上の賞については今後交付予定はなく、習得された方々の市町村等での御活躍を期待しているところです。

問二 現在カレッジに参加している市町村が半数よりちよっと多いくらいと聞きますが、全市町村の参加が期待できないものですか。

答 当センターとしても全市町村の参加を期待し、訪問させていただいたり機会あるたびにお願いをしています。市町村によっては、「手続きが面倒なのではないか」や「担当行政職員の異動等で引継ぎが不十分」等から参加されていない実態があります。

県民の多様なニーズに応えるためにも、全市町村からカレッジへの参加をいただき、広域的な学習が展開されるように、今後とも御理解と御協力をお願いしていきたくと考えています。

三 本紙「生涯学習にいがた」について

問一 県内各市町村や県外の生涯学習推進への取組の紹介や、地域色豊かな生涯学習関連事業及び施設を取り上げた記事の充実を図ってもらいたい。

答 今後の紙面づくりに反映していきます。

問二 発行部数を増やしてほしい。

答 財政上、発行部数の増加は難しいところです。若干の予備がありますので、必要な場合はご相談ください。なお、平成十年度よりインターネットでも印刷紙面と同じ情報を提供しています。(PDF形式)こちらの方もご利用ください。

四 学習相談について

問一 電話での対応だけでなく、資料等送付してもらいたい。

答 当センターでは、多方面からさまざまな資料を収集し、皆様からの相談に応じています。今後も電話やラ・ラ・ネット等を通して皆様のお役に立てるよう話し合いを行っていきます。

また、市町村からの計画書・報告書等の情報も重要な情報源となつていきます。今後も情報の提供をお願いします。

五 推進センター主催研修・講座等について

問一 講座の内容や開催場所、日程等についての要望から。

・市町村の生涯学習推進委員や学習指導員などを対象とした研修の充実をお願いします。
・各市町村の自主運営サークルなどの活動状況や成功事例を、実際に活動している民間の方から聞いてみたい。
・推進センター以外の会場での研修を増やしてほしい。(出前講座の実施)また、不参加の市町村に研修内容を配付していただければありがたい。
・佐渡から考えると、分散するよりも集中して一泊二日の日程の方が参加しやすい場合もある。

答 皆様からの意見は研修会運営にできる限り反映させていただきます。今後も意見をお寄せください。

問一 町単独で大学等と連携した講座の開催は難しい。県(推進センター)で窓口になってほしい。

答 推進センターでも市町村と大学等高等教育機関との連携のコーディネートを行っています。いつでもご相談ください。

編集後記

当センターには学社融合やボランティア等の学習プログラムに関わる相談が多く寄せられます。

今号から各地で展開されている先進的な取組を連載で紹介していきます。今号のテーマは「学社融合」です。今後取り上げてほしいテーマがありましたら、当センターまで御連絡ください。

なお、本紙は当センターのホームページでPDF形式でも発行しています。